

2024年9月10日

将棋教室ラボ開校による将棋で鍛える「正解がない問いを、考える力」の仮説検証を実施

～ 日本の伝統文化である将棋で思考力を育みます ～

東急株式会社

公益社団法人日本将棋連盟

株式会社日本入試センター

株式会社東急キッズベースキャンプ

東急株式会社(以下、東急)、公益社団法人日本将棋連盟(以下、日本将棋連盟)、株式会社日本入試センター・SAPIX小学部(以下、SAPIX小学部)、株式会社東急キッズベースキャンプ(以下、東急KBC)の4者は連携して、将棋教室ラボによる将棋で鍛える「正解がない問いを、考える力」の仮説検証(以下、本検証)を2024年10月から実施します。

本検証では、将棋の棋力が向上すれば、探究思考・プログラミング的思考が身に付き、「身の回りのできごとや社会問題に対して適切な問いを立てることができる。そして、その問いに対して立ち向かうための先の先を読む論理的思考力や知識を知恵に変えて行動する力、試行錯誤を重ねて挑戦し続ける精神、心の土台となる自己肯定感(以下、「正解がない問いを、考える力」)が育まれる」という仮説を立て、その検証を行います。

本検証のための将棋教室ラボを2024年10月9日に東急関連施設である「WISE Living Lab さんかくBASE」(横浜市青葉区)に開校し、SAPIX小学部に通う小学3年生および東急グループの子育て支援事業の中核会社である東急KBCを利用している小学3年生を対象に生徒を募集します。2024年10月～12月の3か月間に全11回の授業・イベントを行います。短期間での将棋的思考の鍛錬が探究思考やプログラミング的思考を育むことにつながるかどうかについて、生徒たちの変化を観察します。さらに、2025年1月に実施されるSAPIX小学部の新小学4年生向け入室テストを評価尺度として活用し、論理的思考力の向上効果について検証します。

本検証にあたって、東急と東急KBCは「将棋の棋力が『正解がない問いを、考える力』に学習転移することについての仮説構築、将棋教室ラボの企画・運営など」、日本将棋連盟は「入門者向けの将棋教授法に関する助言、指導役としての棋士、女流棋士の派遣など」、SAPIX小学部は「思考力問題の作成、思考力向上のノウハウや効果検証のための評価尺度の提供など」を担います。

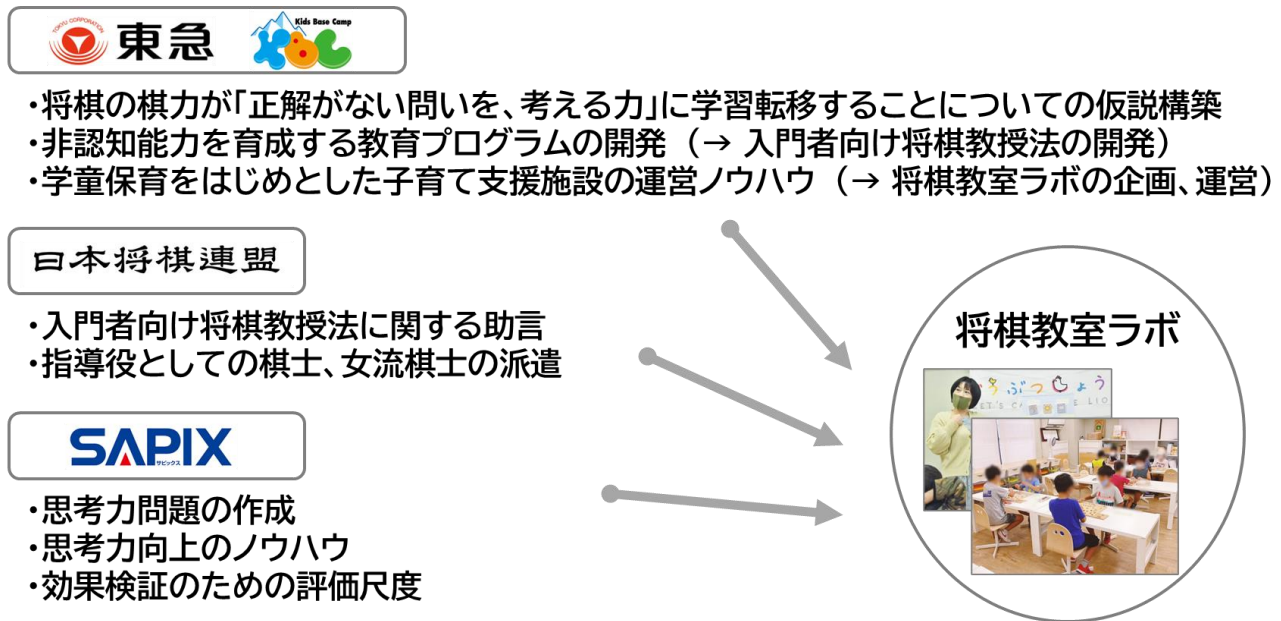
これからは先々の見通しが立ちにくいVUCA(※)時代を迎えるといわれていますが、4者は日本の伝統文化である将棋を活用して、主には小学生を対象とした「正解がない問いを、考える力」の向上を目指していきます。また、本検証を通じ、東急と東急KBCは汎用的な思考力、ひいては“生きる力”を育むために、小学校などの公教育で実践されている「探究学習」「プログラミング教育」を学校外で補完するための学習教室の事業化の検討、日本将棋連盟は将棋の価値創造を目的に教育分野での利活用の可能性の検討、SAPIX小学部はカリキュラムに新たな学習分野として将棋を加える価値があるかどうかの検証をします。

※Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)

以上

【別紙】

1. 本検証のスキーム図



2. 本検証実施の目的

■東急・東急KBC

東急と将棋界との縁は、半世紀以上にわたり毎年夏に開催されていた東急百貨店・さっぽろ東急百貨店での「東急百貨店将棋まつり」などを通じて、長く深い歴史があります。

東急は、2024年度を始期とする中期3か年経営計画において、サステナブル経営方針の重要テーマとして「ひとづくり」を掲げています。「教育、文化、環境活動などを通じた社会におけるひとづくりの推進」により、未来に向けた美しい生活環境の創造に取り組む一環として、今年4月に文化・エンターテインメント事業部を社内に組成しました。

当該事業部においては、東急歌舞伎町タワーなどのエンターテインメント領域の事業の他、文化領域の新規事業についても企画開発しています。今般、その一環として、日本の伝統文化である将棋に着目するとともに、将棋の事業リソースとしての可能性を検討し、その過程において「将棋の棋力が『正解がない問いを、考える力』に学習転移する」という事業仮説を立てるに至りました。

東急KBCは、民間学童保育の先駆者として2006年に事業を開始し、東急線沿線を中心に22施設を展開しています。民間学童保育の他には、保育園事業や自治体が所有する児童館等の子育て支援施設の運営受託も行っており、子育てがしやすい環境整備に貢献しています。東急KBCは、日々のさまざまなアクティビティや教育プログラムを通じて、将来子どもたちが自分の生きたい人生を切り開いていくための土台となる力“社会につながる人間力”＝“非認知能力”の育成を理念に掲げています。

近年、小学校などの公教育において、汎用的な思考力、ひいては“生きる力”を育むことを目的に「探究学習」「プログラミング教育」などが実践されています。これからは先々の見通しが立ちにくいVUCA時代を迎えるといわれています。東急と東急KBCは、中期3か年経営計画のサステナブル経営方針に則り、VUCA時代を明るくしなやかに生き抜くひとづくりを目的に、「探究学習」「プログラミング教育」を学校外で補完するための学習教室の新規事業化の検討を、本検証を通じて行います。

■日本将棋連盟

従来から「学校教育への将棋導入推進事業」などを通じて、将棋を学ぶことで思考力・集中力・決断力・洞察力・礼節などの多様な能力・スキルを身に付ける機会を支援してきました。

<https://www.shogi.or.jp/about/activity/education/>

「知能ゲーム」が学力・思考力向上に与える影響についての研究はチェス等で多数あり、日本将棋連盟も、理化学研究所による棋士の対局中の直観的な判断や指し手の決定プロセスなどに関する、脳の神経回路の情報処理メカニズムの解明を目的とした研究などに協力してきました。

<https://bsi.riken.jp/shogi-project/index.html>

今回の本実証では、プロ棋戦・伝統文化・大衆娯楽・頭脳スポーツ以外のコンテンツとしての将棋の価値創造を目的に、特に教育分野における利活用の可能性を検証します。

■SAPIX小学部

難関校の中学受験で求められる論理的思考力を鍛えるための方法論の一つとして、将棋的な思考・試行錯誤・工夫を繰り返すことによる能力開発効果を期待しています。

論理的思考力の育成は、これから先の社会を担うお子様には必須の課題であり、中学受験においても従来の知識力や処理能力をみる問題よりも、受験生の自分の頭で試行錯誤する思考力や自分の言葉で表現する記述力をみる問題が難関校だけではなく中堅校でも幅広く出題されるようになっていきます。

SAPIX小学部は、論理的思考力を育むための方法論の1つとして将棋などを検討しています。今回は開塾以来、もっとも重視してきた思考力育成のノウハウや知見を本検証に提供します。

3. 将棋教室ラボ概要

- 主催 東急株式会社
- 協力 公益社団法人日本将棋連盟、株式会社日本入試センター
株式会社東急キッズベースキャンプ
- 開校期間 2024年10月9日～12月14日（授業・イベント 全11回）
- 開校場所 WISE Living Lab さんかくBASE(最寄駅:東急田園都市線・たまプラーザ駅)
- 募集人数 12名
- 募集対象 <将棋未経験者> SAPIX小学部に通う小学3年生
<将棋未経験者> 東急KBCに通う小学3年生
- 参加料 無料
- 講師 北尾まどか女流二段(日本将棋連盟所属)
- 特別講師 西尾明 日本将棋連盟常務理事(浅野中学校 出身)
中村太地 八段(早稲田実業学校中等部 出身)
青嶋未来 六段(SAPIX小学部、麻布中学校 出身)
本田孝一(東急所属。筑波大学大学院 教育研究科 修了)
- 授業内容
 - ・将棋の棋力が「正解がない問いを、考える力」へ学習転移する仮説について
 - ・「どうぶつしょうぎ」や「本将棋」のルール、基本テクニク
 - ・「どうぶつしょうぎ」におけるパターンの発見、活用、連携、汎用化の学習
 - ・「本将棋」の駒落ちで棋士に勝つための「探究学習」
 - ・詰将棋問題の作成を「プログラミング」に見立てた創作学習
 - ・(宿題)AIを教師役、対局相手とした実戦。詰将棋問題の解答、作成 など